

大腸がん

中野医院
院長 中野 正美 先生

食事の欧米化に伴って、わが国でも大腸がんの患者が増加しています。40歳以上の市民は住民基本検診で大腸がん検診を受けることができます。詳しくは保健センターあるいは、かかりつけ医にご相談ください。

大腸がん検診は、検便法（便の中の血液を検出する方法）が用いられています。目に見えなくても便に血液が混ざっていると陽性になります。陽性になった人は精密検査を受けるよう勧められます。平成12年の全国集計では、精密検査を受けた人の96.2%はがんではありませんでした。したがって、陽性だからといって、ほとんどは大腸がんではないのです。しかし、3.8%にがんが発見されています。（精密検査受診者数6万9267人のうち大腸がんは2656人。大腸がん検診を受けた総数150万1781人に対しては0.18%）。

精密検査受診率は全国集計が63.2%でしたが、太田市民は平成13年度、30.6%（男性26.1%、女性33.7%）で全国レベルをかなり下回っていました。それでもがんは3人見つかっています。全国では精密検査を受けた人の43%に大腸ポリープがありました。大腸ポリープは胃ポリープと違って大きくなるとがん化しやすいのが特徴です（直径2センチより大きいものには約30%にがん細胞がありました）。

また、内視鏡で大腸ポリープを全部取った人は、取らなかった人より、その後のがんの発生が少なかったという論文のデータがあります。太田市で平成13年度大腸がん検診を受けた人は5925人で、精密検査を受けるように指示のあった人は405人でした。しかし、実際に精密検査を受けた人は124人でした。

市民の皆さんには大腸がんの精密検査の勧めがあったら、もっと積極的に検査を受けていただきたいと思います。大腸がんを見つけることも大事ですが、大腸がんの発生母地の一つと考えられる大腸ポリープを見つけて取ってしまうことが、大腸がん予防にもなるのではないのでしょうか。精密検査も昔ほど苦しくなくなりました。